

# クモ形類等



### 概要

「クモ形類等」は、今回、新たに選定の対象に加えられた。クモ形類のうち、福岡県内に生息、あるいはその可能性があるクモ類とザトウムシ類を検討対象種とし、1次リストを作成した。クモ類の1次リストは、福岡県で文献記録のある種に、聞き取りと資料調査および個人標本によって得られた情報を加えてリストアップした。また、ザトウムシ類は専門家への聞き取りによって1次リストを整備した。次に、現地調査によって生息情報を収集し、最近の生息状況の変化を推測して定性的に対象種を評価した。さらに、分科会会議での検討を経て、カテゴリーを決定した。

クモ類は、主に昆虫類を捕食する中間捕食者として、陸上生態系において重要な役割を占めている。日本からは64科約1500種が知られており（小野，2009）、そのうち福岡県から報告のあるクモ類は42科328種である（馬場ほか，2009）。クモ類相がよく調べられた県では、確認種が500種を大きく超えることから、福岡県におけるクモ類相の解明度は高くないといえる。また、県内の体系的な調査は少なく、断片的な生息情報がある種がほとんどで、一部の種を除いて分布状況さえ明らかになっていないのが現状である。

ザトウムシ類は、山地の森林に生息する種が多く、日本から約80種、福岡県から20種余りが知られている。生息種の解明度は高いが、詳細な分布状況はよくわかっていない種が多く、増減傾向などの情報は非常に少ない。ザトウムシ類は移動性が乏しいため、地理的な分化が生じやすく、分布域が限られた種が多い。

福岡県RDB2014では、クモ類7種、ザトウムシ類5種を掲載した。絶滅危惧II類としてヒゴキムラグモの1種、準絶滅危惧にはキシノウエトタテグモ、ダイセンヤチグモ、ヒトハリザトウムシ、ヒコスベザトウムシ、ヒライワスベザトウムシの5種、情報不足には6種を選定した。キムラグモ類は原始的な形態を残したクモで九州以南にみられるが、ヒゴキムラグモはその北限に分布する種である。福岡県では南部の八女市などに限って分布しており、生息地が局地的で今後の動向に注意する必要がある。ヒトハリザトウムシは海浜性の種で、生息情報は少ないものの、生息に適した自然海岸などが減少していると考えられるため準絶滅危惧とした。同様に海浜性のクモ類であるイソタナグモ（情報不足）の生息地は比較的多いが、近縁な外来種の侵入が確認されている。ダイセンヤチグモ、ヒコスベザトウムシ、ヒライワスベザトウムシ、ヒメタテヅメザトウムシ（情報不足）の4種は英彦山の森林が主要な生息地であるが、ニホンジカによる森林環境への影響が懸念される。また、情報不足として、福岡県では生息情報の少ない環境省レッドリスト種の3種を掲載した。その他の重要種としては、英彦山からアカオニグモの古い記録があった。アカオニグモは北方系の種で、西日本では山地の草原に生息する。大型の円網種でよく目立つコガネグモは、減少傾向が知られていることから、各地でレッドリスト種やそれに準じた種として扱われることが多い。県内においても減少傾向は予想されるが、判断するだけの情報がなかったため保留した。クモ類の中では一般にもよく知られた種であり、良好な二次的自然の指標として今後の動向を把握するための情報収集のしくみなども課題となる。

クモ類・ザトウムシ類以外の陸生の節足動物としては、クモ形類ではカニムシ類やダニ類、その他では多足類や等脚類（ワラジムシ類）などが挙げられる。しかし、生息情報が少ないこと、同定が困難な種が多いこと、小型であること（ダニ類）などから、それらの分類群の取り扱いは今後の課題とした。

### 選定基準

クモ形類等では、絶滅のおそれの度合いに関して定量的な評価を行うための情報が不足しているため、定性的な判断によってカテゴリーを決定した。その際に、生態的な特性から推測される生息地の衰退や

生息環境の変化や、近隣県や全国の情報などを参考に評価した。また、環境省のレッドリスト種で福岡県にも確認記録がある場合でも、分布状況が明らかになっていないものは情報不足とした。

## ハビタット

希少なクモ形類の生息環境として、福岡県内では以下の環境が挙げられる。

### (1) 自然海岸・ヨシ原

ヒトハリザトウムシは砂浜と海蝕崖を伴う自然海岸や河口域のヨシ原などが主な生息環境である。しかし、海岸沿いに道路や護岸が建設されているところではみられなくなると報告されている。

### (2) 山地の森林

県内の代表的な森林環境として英彦山地が挙げられる。ザトウムシ類は、一般に適度な湿度が保たれた森林に生息することが多く、人里に近い二次林などには少ない。特に、英彦山をタイプ産地として記載され、英彦山地を主要な生息域としている種として、ヒコスベザトウムシ、ヒライワスベザトウムシ、ヒメタテヅメザトウムシの3種を選定した。一方、クモ類では、ダイセンヤチグモが英彦山の標高1000 m付近から上の森林に限って確認されている。

### (3) 二次草地（半自然草原）

二次草地は人為的な管理によって維持されてきたが、生活の変化によって利用されなくなった脆弱な環境である。本県でも、山地草原の消失にともなって多くの植物が絶滅あるいは絶滅危惧種となっている。アカオニグモは北日本に多く、西日本では比較的標高の高い草地などに生息するため、山地草原の指標として重要である。しかし、福岡県では古い確認記録はあるものの、今回の調査では確認することができなかった。

### (4) 里地・里山

水田やその周辺の草地・二次林などからなる環境は、昆虫類が多くクモ形類の重要な生息環境である。しかし、全般的な減少傾向は予想されるが、特に種として選定するものは特定できなかった。ただし、コガネグモは減少傾向が知られており、農業形態の変化などによって餌となる大型昆虫の減少が影響していると考えられる。二次的自然の代表種として、今後の生息状況の変化を把握することが望ましい。

## 危機要因と保全対策

ヒゴキムラグモでは、危機要因として「森林伐採」、「土地造成」、「産地局限」が挙げられる。生物多様性の第一の危機として、森林伐採や土地造成などの人間活動による影響が重大であることはいうまでもない。それに加えて、クモ類とザトウムシ類では、英彦山を中心に生息する4種が挙げられているのが特徴的である。英彦山が良好な森林環境としてホットスポットであるというだけでなく、ニホンジカの影響によって森林が危機的な状況になっているためである。特に、落葉層を生息場所とするダイセンヤチグモでは、林床の乾燥化や大雨による土壌流出は深刻な状況であると考えられる。そのため、この地域におけるニホンジカの個体数管理を伴う保護管理対策の強化が望まれる。

## 調査協力者

鶴崎展巨，山崎茂芳

## 参考文献

小野展嗣 編著，2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会.

馬場友希・新海 明・谷川明男，2009. 文献による福岡県産クモ類目録. KISHIDAIA, 95 : 57-80.

## 新旧対照表

クモ形類・ザトウムシ類等は、今回初めて検討対象とした分類群であるため新旧対照表は作成していない。

クモ目ハラフシグモ科	ヒゴキムラグモ	絶滅危惧Ⅱ類
------------	---------	--------

*Heptathela higoensis* Haupt, 1983

2001：－，環境省：絶滅危惧Ⅱ類 [キムラグモ (広義)]

選定理由	福岡県はキムラグモ類の分布の北限にあたる。ヒゴキムラグモは分布域が非常に限定されており、個体数も多くないと考えられる。森林の林床や林道沿いの崖地などに生息するが、山地の開発や林道整備などによって生息環境が脆弱である。福岡県から大分県にかけてのキムラグモ類の生息北限地帯では、1994～2006年に個体群が衰退しているという報告がある。
危機要因	森林伐採，土地造成，産地局限
分布情報	八女市と大牟田市で記録があり，福岡県では南部に限って分布する。九州のキムラグモ類 <i>H. kimurai sensu lato</i> は地域ごとに5種に分けられ，側所的に分布する。そのうち，ヒゴキムラグモは福岡県南部から熊本県中部に分布している。
種の概要	全身が褐色で，体長は雌 15 mm 雄 10 mm くらい。歩脚は太く，触肢が発達しているため5対あるように見える。腹部には体節のなごりがあり，背面にやや硬化した背板が並ぶ。崖地などに横向きまたは斜め下向きに穴を掘って住居を作る。入り口には土やコケでカムフラージュされた片開きの蓋をつける。

クモ目トタテグモ科	キシノウエトタテグモ	準絶滅危惧
-----------	------------	-------

*Latouchia typica* (Kishida, 1913)

2001：－，環境省：準絶滅危惧

選定理由	福岡県では現在は確実な生息地が知られていない。西日本では市街地の寺社や大きな樹木のある緑地公園(城址など)に生息することが多いが，福岡県では近隣の県に比べても生息地が非常に限定されていると考えられる。
分布情報	宇美町の神社で確認記録があるが，現状は不明である。

クモ目タナグモ科	ダイセンヤチグモ	準絶滅危惧
----------	----------	-------

*Coelotes eharai* Arita, 1976

2001：－，環境省：－

選定理由	九州では英彦山だけで生息が確認されている。英彦山ではニホンジカの増加によって林床植生の貧弱化が進行し，生息環境が悪化していると考えられる。
分布情報	英彦山の標高 1000 m くらいから上の森林の林床に生息する。国内では本州西部・四国・九州の山地森林に分布する。

ザトウムシ目カワザトウムシ科	ヒトハリザトウムシ	準絶滅危惧
----------------	-----------	-------

*Psathyropus tenuipes* L. Koch, 1878

2001：－，環境省：準絶滅危惧

選定理由	海岸や河川感潮域に生息する。自然海岸への依存度が高いため，市街地周辺では埋立や護岸整備によって生息適地が縮小している。海蝕崖のある砂浜やヨシ原などを好むが，道路整備などによって陸域と分断されるとみられなくなるため，生息地は減少傾向にあると考えられる。
分布情報	確実な記録は北九州市だけであるが，県内各地の自然海岸等に生息すると考えられる。

ザトウムシ目カワザトウムシ科	ヒコスベザトウムシ	準絶滅危惧
----------------	-----------	-------

*Leiobunum hikocola* Suzuki, 1966

2001：－，環境省：－

選定理由	生息地が限定されている。英彦山の比較的標高の高い森林で生息が確認されているが，英彦山ではニホンジカの増加によって生息環境が悪化していると考えられる。
分布情報	英彦山がタイプ産地である。国内では，福岡県と屋久島に限って分布している。

ザトウムシ目カワザトウムシ科	ヒライワスベザトウムシ	準絶滅危惧
----------------	-------------	-------

*Leiobunum hiraiwai* (Sato & Suzuki, 1939)

2001：－，環境省：－

選定理由	生息地が限定されている。福岡県で唯一生息が知られている英彦山では、ニホンジカの増加によって生息環境が悪化していると考えられる。
分布情報	英彦山がタイプ産地で、福岡県では英彦山でしか記録がない。関東以西の本州、九州北部、対馬の山地に生息する。

クモ目ジグモ科	ワスレナグモ	情報不足
---------	--------	------

*Calommata signata* Karsch, 1879

2001：－，環境省：準絶滅危惧

選定理由	草地・畑地・寺社・公園緑地などで確認されることが多く、広く分布すると考えられるが、生息状況はよくわかっていない。土地の改変や整備によって、生息適地が減少している可能性が高い。
分布情報	朝倉市、宇美町で確認されている。県外の生息状況や本種の生息環境からみて、各地に分布すると考えられる。

クモ目トタテグモ科	キノボリトタテグモ	情報不足
-----------	-----------	------

*Conothele fragaria* (Dönitz, 1887)

2001：－，環境省：準絶滅危惧

選定理由	個体数は多くないと考えられるが、県内の生息地は比較的多い。土地改変や林道の整備などによって生息適地はやや減少していると考えられるが、絶滅リスクを評価するためには生息状況の把握が必要である。
分布情報	福岡市、北九州市、宗像市、行橋市、大牟田市、宇美町、英彦山で確認されている。市街地付近では社寺や公園緑地に生息し、山間部では森林や林道沿いの崖地などでよくみられる。

クモ目ウシオグモ科	イソタナグモ	情報不足
-----------	--------	------

*Paratheuma shirahamaensis* (Oi, 1960)

2001：－，環境省：－

選定理由	海岸や河口付近の干潟の上部(潮上帯)に生息する。市街地周辺では、埋立や護岸整備によって生息適地が減少していると考えられる。また、博多湾では近縁な外来種であるシマイソタナグモ <i>P. insulana</i> が確認されており、生息環境が競合する可能性がある。現状では絶滅のおそれは少ないが、今後の動向に注意する必要がある。
分布情報	福岡市、古賀市、北九州市、行橋市で確認されており、県内の沿岸部全域に点在していると考えられる。

クモ目ハウシグモ科	ドウシグモ	情報不足
-----------	-------	------

*Asceua japonica* (Bösenberg & Strand, 1906)

2001：－，環境省：情報不足

選定理由	本州、四国、九州、南西諸島に分布しているが、確認記録は少ない。
分布情報	福岡市の立花山や能古島で記録があるが、県内の分布状況は不明である。

ザトウムシ目マザトウムシ科	ゴホントゲザトウムシ	情報不足
---------------	------------	------

*Himalphalangium spinulatum* (Roewer, 1911)

2001：－，環境省：情報不足

選定理由	人里近くの雑木林や竹林などに生息するが、確認情報は少なく、分布は局地的である。
分布情報	福岡市、朝倉市、行橋市で確認されているが、県内の分布状況はわかっていない。

*Yuria pulcra* Suzuki, 1966

2001：－，環境省：－

選定理由

山地森林の落葉層(リター)中に生息するが、既知の生息地が少ない希少種で、生息地が局限されている。

分布情報

英彦山がタイプ産地で、英彦山と飯塚市で確認記録がある。基亜種 *Y. p. pulcra* は福岡県と山口県秋吉台で記録され、阿蘇山・愛媛県・徳島県・兵庫県・京都府には別亜種 *Y. p. briggsi* が分布する。